

<今日の説教のポイント 出エジプト記 13 章 17-22 節>

いよいよ出エジプト。そこに記された三つの内容に注目。

1 (17-18) 神様は私たちの状態を見ながら導いて下さるお方。

面白い内容です。エジプトの兵士とすぐ戦うことになっていたら、確かに人々は出て来たことを後悔したでしょう。しかし葦の海に向かって後悔しなかったかというやはり後悔しましたが、この時はモーセがすでに主から告げられ(14:1-4)、彼らを導く準備ができていました。モーセはその役割を果たし、人々もそれに聞き従い、ヤハウェ (主) なる神様を信じて歩む経験を一つ積んだのです(14:10 以下)。神様は私たち人間の状態を見ながら対応して下さるお方であることを思わされます。同時に、私たちも神様を覚えることのできた経験を軽んじず、さらに経験を積み重ねてその上に立ち、モーセのように神様に信頼するよう他の人に励ますことができるようになる務めを担っているのでしょう。

2 (19) イスラエルとは民族ではなく、神様に従う[残りの者]を指す。

ヨセフの骨を持って出る話は、創世記以来の神様の約束の成就に向かうスケールの大きなテーマと深く関係しています(創世記 45:4-8, 50:25 → ここ → ヨシヤ記 24:32)。ここにも「残りの者」(創世記 45:7、イザヤ書 11:11、49:6) という、神様に導かれる中で神様を信じて生き抜く人々が神様の御計画の中に置かれていることが見て取れます。私たちもこの「残りの者」に入れられたのです。

3 (20-22) 神様はいつも共にいて導き給う方。今はどのようにして？

「私にも雲の柱、火の柱として神様が現れて下さったらいいのに」、と思うかもしれません。でもすぐに、彼らはエジプトの兵士に追いつかれて不安に陥ったのです。1に記したように、「この神様を信頼すれば大丈夫なのだ」という経験を積む、否、経験を積むだけでなく、そこから何を聞き取るかが大事、そしてその上にしっかり立って生きる者となることが大事なのです。今の私たちには聖書が、教会が、そしてそれらを通して知らされるイエス・キリストが与えられています。見えなくなると不安になる柱でなく、見えなくてもいつも共にいて下さる神様をしっかり覚えて歩める信仰を身に着けることに取り組みましょう。